

第 61 回北九州市環境審議会

1 日 時：令和 3 年 7 月 16 日(金) 15：00～16：30

2 場 所：リーガロイヤルホテル小倉 3階 エンパイアルーム

3 出席者（敬称略）：

会 長 浅野 直人

会長代理 中島 隆治、松永 裕己

委 員 藍川 昌秀、池田 幹友、井上 しんご、井上 智帆、上田 直子、江口 恵子、大田 純子、
服部 祐充子、浜口 恒博、細川 文枝、松井 清記、森 莉乃、山田 真知子、吉田 幸正

特別委員 古野 英樹、山根 小雪

事 務 局 富高環境局長、中島総務政策部長、正平グリーン成長推進部長、有馬環境国際部長、
作花環境監視部長、正代循環社会推進部長、坂元総務課長/環境学習課長、
工藤グリーン成長推進課長、岡島再生可能エネルギー導入推進課長、
村上環境イノベーション支援課長、酒井環境国際戦略課長、松尾環境監視課長、
川崎産業廃棄物対策課長、小野循環社会推進課長、岩崎適正処理・減量化担当課長、
三宅業務課長、野口施設課長

4 議 題

■ 審議事項

- (1) 第 2 期北九州市循環型社会形成推進基本計画の策定について
- (2) 北九州市地球温暖化対策実行計画の改定について

5 議事概要

開会にあたり、会長から、最近の国の環境政策の動向について紹介があった。

その後、審議事項 2 件について、事務局から説明があり、質疑応答がなされた。

両計画ともに、「パブリックコメントの実施結果」、「提出された意見に対する事務局の考え方」、
「パブリックコメントを踏まえた計画（素案）の修正内容」について審議がなされ、審議内容を
踏まえた修正内容については会長一任となり、8 月上旬に市長に対して答申することが了承された。

6 議事録（要旨）

■ 審議事項

【事務局】

それでは、これからの議案につきましては、会長にお願いしたいと思います。
お願いいたします。

【会長】

それでは、まず「循環型社会形成推進基本計画策定について」お諮りします。
事務局から説明をいただきます。

【事務局】

「循環型社会形成推進基本計画策定」について、小野循環社会推進課長から説明

【会長】

はい、どうもありがとうございました。

それでは、ただいま事務局からこの件に関して説明いただきましたが、全体通しまして、ご質問、ご意見ありましたら伺いたいと思いますが、いかがでございましょうか。

【委員】

55 ページです。

一貫した環境教育の充実ということで、環境ミュージアムの活用とか、エコライフステージということで、小倉で行われており、紹介されています。

それに関して、エコライフステージというのは、そういった環境に配慮した、一人ひとり生活を見直そうという提案で、私たちも、フードバンク北九州で参加したことがあります。主に市民向けのイベントです。

今後、環境ミュージアムの活用ということであれば、今、東田地区において、新科学館がオープンすると、近くにはイノベーションギャラリー等で、これまでの産業を紹介するということがありますし、今後その環境に絡めて、個人の生活の見直しもありますけれども、新しい科学、科学館にちなんで、そういった科学で、どう環境を今後持っていくのか、それをイノベーションギャラリーの機能を使ってそれをどう産業化していくのか、若松のそうしたエコタウンということとつなげて、今実証実験やっていますけれども、そういった全体が、生活を見直しする科学、産業という形でも一貫した学びができるような場になっていければなというように思っております。

エコライフステージは、主に市民向けですけれども、今後東田地区に新しいアウトレットモールができます。これから北九州市民に対してそうですけれども、要は、北九州市から発信していくという意味で、県外や市外のお客さん等も今後、地域に多く来られますので、ここは博物館に非常に集まっている地域でもありますので、こういった部分でも、より一歩踏み込んで、そういった北九州初の、いろんな環境を、ライフスタイルの見直しという提案も今後、北九州市の役割として、必要になってくるのではないかなというように思っております。

そこで、そういったライフスタイルの見直しということでもありますけれど、ただ北九州スタイルと、今、各地域でまちおこしの一環で、私の友人が岡垣スタイルということで、東京から移り住んで、岡垣の自然とか、農業とかを活かして、そこでは、いろんな仕事を興していこうということで取り組んでいます。そういった部分で、北九州スタイルということで、ブランド化して、仕事、余暇、子育てなど、あらゆる部分において、北九州市が、市外に、また、世界一は大げさかもしれませんが、そういったところまで踏み込んだ一貫した環境教育の充実というところで、進めてもらいたいと思っておりますが、この点、意見ありましたらお聞かせください。

それから、103 ページです。

市民の意見として、もっと取り組んで欲しい施策ということで、1 位に「古着のリサイクル事業の推進」とあります。

今、やっと町内でも古着のリサイクルを始めていますけれども、一方で、北九州「工具のまち」ということで、ウエス（機械器具類の清掃に用いられる布切れ）を使っていますけれども、ウエスも値上がりをしているということです。多くは、輸入に頼っているという部分もあってですね。

一方では、古着のリサイクルが進んでいないということで、当然、今結構地域でも、古着とかを、なんか使いたいと思っても、例えばその他施設に寄付したいという場合は未使用分に限るとか、なかなか、使用して状態が良いものであっても、その活用がないということで、意見が上がっております。

今後、古着のリサイクルというのは市民の要望として一つ良いと。

一方で、そういった布がなくて、ほとんど廃棄されているという現状の中で、まだまだ各町内会がやっている古紙のリサイクルほど、古着のリサイクルが進んでいないと思っています。

これについて、市としても、まだ始めたばかりですから、少し取組みを進めてもらいたいと思いますし、まだまだ使える服についても、市がするというよりも、民間の、環境ミュージアムをやっていますけれども、子供服、制服など、そういうのをリサイクルして、次に使えるような形で取り組む団体を支援するとか、そういった啓発をすとかということで、1位の取り組んでほしい施策について、市として進めてもらいたいというように思っておりますが、意見をお聞かせください。

以上です。

【会長】

はい、ありがとうございました。

他にございませんでしょうか。

次の委員、どうぞ。

【委員】

私は、市民活動をやっております、多文化共生国際理解得がメインだったんですけど、世界を見ることで、地元の自分たちの暮らし方とかもあわせて考えるようになってきたところもあって、先日の子供たちの教育、55ページの赤字で修正を入れていただけて、ちょっと嬉しいなと思っております。

保育園とか幼稚園とか、それから小学校とかで、子供たちの環境教育も、福岡県の温暖化防止推進センターの推進員も今やらせていただいていることもあって、そういうところの方々とやっていますけれど、ここに書いていただいたように、「親子で参加できる環境イベントの実施など」とありますが、先日もちょっとお伝えしたかと思えますけれど、今北九州におられる子育て世代の、特にお母さまたちは、高等教育を受けておられますし、活動も活発ですので、ぜひそのような方たちに、企画に参加していただいて、時にはレスパイト、親と子と別のものを同じ時間体で、私たちのような推進員とかを使っただけで実施するとかですね、もっと工夫の仕方はあるかと思ひながら、これを読ませていただきました。

もう一つは、2点目ですが、私はずっとドキュメンタリー映画を上映してきましたので、東田シネマ、環境ミュージアムに随分お世話になりながらやってきた時期もありますが、コロナでなかなかそういう場所も使わせていただきにくい状況もあります。ですが、ちょっと視点を変えると、きっと、北九州市にはそのようなことができる場もあるかと思ひますので、フードロスのことですね。

たまたまちょっと手元に、こういうパンフレットがあったのでお持ちしたのですが、フードロス、もう使えないかなと廃棄されるような食品を、これはヨーロッパの映画ですが、使ってお料理をしたり、それを食べてまた次のことを考えたりっていう、本当に無名な作品ですけれども、これの日本版を、こちらの配給会社を作っていて、その配給会社は福岡県にあります。

だからそういうところもご一緒に何かできたり、私も、6、7年、ここと契約しているので、活動を皆さんと共有できたらいいなというのも思っています。

たまたまですけど、韓国では日本版を 5、60 ヶ所で上映する予定が決まっているということで、私 ESD の人なので、韓国とずっと交流させていただいて、あちらは食の問題とかに熱心なものも見聞きしておりますので、韓国でやってくださるんですしたら、北九州市でも、福岡県内にある配給会社が頑張って作ってくれたこういう作品を通して、環境教育とか食品ロスのこととか、もちろん気候変動とか、考えていく機会になればいいなと思っております。

【会長】

はい、ありがとうございました。
他にございませんでしょうか。
次の委員、どうぞ。

【委員】

1 点だけ確認をさせてください。
10 ページの中で、「発電量」を「売電量」に変えたというご説明をいただきましたが、上の表の中で、削減量が 88 千トンで変わらないということは、「発電量」と「売電量」、数字としては変わらないけれども、表現を変えたという理解でよろしいでしょうかという確認です。

【会長】

はい。
事務局、お願いします。

【事務局】

その点につきましては、発電量と書いておりますけれども、この発電量の中で、売電する分と、焼却工場で使う電気も賄っている分もございますので、もともと計算上は、焼却工場分を除いた、いわゆる売電した分のみを計算に入れておりましたので、88 千トン。

【会長】

要するに、自家消費分がどれだけか、係数上、全然あがっていないってことですよね。
ですから、委員のご質問のとおりということですね。

【事務局】

はい。
表現の修正だけでございます。

【会長】

自分の家の場合でもよく似たようなことがあって、電力会社を買ってくれたら、電気量はわかるが、自分がどれだけ作ったかということはなかなかわからない、と同じことがおこっているってことですかね。

【委員】

少しイメージと違ったのですが、実質削減できる CO₂ 量という意味では、発電量に掛ける方が正しくはないのですか。

社会に貢献したという観点では、自分のところは除いて、売電量にかける方がいいかもしれませんが、自分のところの分も削減はしているわけですね。

そういうことではないのですか。

【会長】

事務局、回答をお願いします。

【事務局】

CO₂削減量の計算につきましては、施設の発電量のうち、自家消費分につきましては電力消費と発電の両方に計上することになるため、相殺して、外部とのやりとりのみを計上しているということで、平成23年に第1期の計画を作ったときから、この方式でやっているところでございます。

【委員】

ということは、確認ですけれども、本来、売電量と書くべきだったところを、正しく書いたという理解でよろしいですか。

【事務局】

そのとおりでございます。

【会長】

ほかにございませんか。

次の委員、どうぞ。

【委員】

まず質問ですが、ごみ発電からの発電量に関して、これ温暖化の計画とも関わるのですが、2025年までに市内の公共施設2,000ヶ所全部再エネで賄う、ステップワンとしてごみ発電の電力を使うということなのですけれども、まずこの量って、どのぐらい今、現状2,000ヶ所をカバーするだけの発電があるのかなっていう、量的なものを、パーセンテージをみたいなと思っています。

というのは、もうほんのすぐのことなので、どれだけ見込んで、今半分くらいはもう賄えてるのか、どうなのかなっていうのがあります。

あとコメントなのですけれども、二つの計画へのお願いですが、今後概要版をつくられると思うのですが、できたらぜひ英語版を大変かと思いますが、作成いただけたらありがたいです。私ども、すごく外国人から、本当にこういう問い合わせが多くて、答えられるところは答えていますが、やはりこれだけのものは一気に話せないですし、また北九州市としても、世界の環境首都ですとか、世界の海外展開ってことをこれだけうたっているところですので、やはり英語版ってというのは、せめて概要版だけでもお願いいたします。

あとコメントとして、パブリックコメントで書かせていただいた、生ごみ、フードロスっていうコメントちょっと多いなと思いました。私も一つ書かせていただいて、市民で全部やるのはやっぱりこの規模だと難しいってことは、確かにそうだなってすごく思いました。

学校単位でコンポストをやって、食育とか SDGs とか、子ども食堂とか、そういうものを絡めてやっていかないと、なかなかやっぱり、生ごみってかなり手がかかるので、単体で循環だけで考えると割が合わない、大変過ぎる、だけど、教育とか SDGs とか、子ども食堂とか、そういった掛け合わせで副次的な効果をねらって、ぜひやられてください。

コメントにも前向きに考え、検討しますということが書かれておりました。ありがとうございます。以上です。

【会長】

それでは、最初の質問部分について、お答えありますか。

【事務局】

現在、ごみ発電で発電しております量について、再生可能エネルギー分は年間約 9 千万キロワットアワーです。

北九州市の公共施設で使っております使用量は、約 2 億 5 千万キロワットアワーでございますので、おおよそ 3 分の 1 となっております。

【会長】

他にございませんでしょうか。

次の委員、どうぞ。

【委員】

すばらしい計画が、随分できあがってきているなと思います。

それから、先ほど会長が言われたように、国の環境の取組みについても北九州が非常に先進的に取り組んでいる。私たち市民の代弁者からすると、駅降りて、空港降りて、街歩いたときにそれが実感できるように、北九州って自然に共生して美しいなあと思いたいのですが、それがやっぱり他の街と特に何が違うわけではなくて、ググる (Google で検索する) と出てくるけれども、体感できないという、環境首都なのかなという気がしますが、この取組みの中に、これまで取り組んできた努力と成果を、街にデザインとして反映させるということは、ご検討にならない、難しいでしょうか、質問です。

以上です。

【会長】

他に、ご質問、ご意見ございますか。

よろしいでしょうか。

【会長】

それでは、いろいろといただいたご意見の中で、ご質問としてははっきりと確認、回答しなければいけないと思ったものについては、今すでにお答えいただきました。

あとはご質問というよりも、ご要望、ご提言というような感じのものが多いと思いますので、局長からまとめてお答えいただければと思います。

一つ一つにお答えいただくことは無理かもしれませんが、皆さんの熱意に応じて、ぜひ局長から。

【事務局】

では、皆様の熱意に応えまして、私から説明いたします。

まず環境教育について、環境ミュージアムを含め、しっかりやっていきたいと思っておりますので、先ほどの趣旨をしっかり踏まえて、どういうことができるか検討していきたいと思っております。

それから、委員からも言われましたとおり、確かに、環境に対していろいろやっているが、見て実感しないと、それは多分、やっていることをうまく見える化ができていないということで、それについても課題として受け止め、どういうことができるか、しっかりやっていきたいと思っております。

今回の答申をいただいて、しっかりと施策に結びつけていきたいと思っております。

以上です。

【会長】

ありがとうございました。

ご要望として、英語版を作って欲しいといったことは、事務局、ぜひ検討してください。

【事務局】

検討いたします。

【会長】

よろしゅうございましょうか。

私が今お聞きしている限りでは、この答申案そのものの中身について、ここを修正せよということは特になかったような気がいたします。

この審議1に関して、事務局にご説明いただき、ご質問にお答えもいたしました。多くはご要望、或いは今後の市の取組みを促すというご発言が多かったので、この点、今局長が代表して、しっかりやりますというお答えをいただきましたので、これを我々の審議会の答申として、提出したいと思っておりますが、よろしゅうございましょうか。

ご異議ございますか。

【委員一同】

異議なし。

【会長】

特にご異議ございませんね。

ありがとうございます。

それでは、本日のこの審議1については、すでに皆さん方がご議論いただいてまとめたものではありますけれども、これを答申として、審議会として可決したことにさせていただきます。

どうもありがとうございました。

【会長】

それでは次に審議の2に移りたいと思っておりますが、地球温暖化対策実行計画について、事務局から説明をいただきます。

【事務局】

「北九州市地球温暖化対策実行計画の改定」について、工藤グリーン成長推進課長から説明

【会長】

それでは、温暖化の実行計画について、今説明をいただきまして、前回示したものから、パブコメを受けて、その間の状況の変化を踏まえた修正が行われたということで、今日、この答申案についてご説明を差し上げたわけです。

それでは先ほどと同様に、この実行計画の案につきまして、ご意見、ご質問ございましたら、お聞きしたいと思います。

ご発言ご希望の方は、挙手をお願いいたします。

委員、どうぞ。

【委員】

42 ページの先ほどお話ありましたグリーン成長戦略の策定についてです。

年内を目途に、市の計画を作られるというお話でした。

ここには、洋上風力発電を中心というふうに書いてありますので、これをぜひ進めてもらいたいというふうに思っております。

日本は、風力発電としては世界では後発で、国内の中でいうと北九州はトップクラスに近い地位にいると思いますけれども、トップではないと思います。

やはり、国内では秋田県とか、実証が進んでいる長崎とかというところで、これに差はついていませんけれども、その後を追っているという状況で、でも北九州はトップになることは可能だというふうに思っています。

北九州の強みとすれば、北九州は工業地帯で、この北九州市の技術と人材を使って、ザ・北九州というか、北九州で風力発電することも可能だと思うんですね。

まだまだ、風力発電の中心的な技術は輸入に頼っていると思いますけれども、ぜひ北九州のものづくりの強みを活かして、北九州で作った風力発電で発電すると、そして国内で、そういった産業と、やっぱり発電等というふうなトップクラスになってもらいたいというふうに願っております。

これから北九州が浮上していくためには、新しい産業が必要になってくると考えています。

今、北九州の中小企業、技術ある企業は、大体もう結構県外とかに出張に行って仕事をされています。

それが北九州市で、次の産業で携わっていきたいという希望を持たれておりますし、実際の、風力発電の設営とか、解体に携わっている企業も、やっぱり出張で長崎に行ったり、鹿児島に行ったりされております。北九州市は、なかなかそういった仕事がそれほど多くないということで、ぜひこれ北九州でこういった、風力発電を作る、そして設置する、メンテナンスする、また撤去も含めて、そういった産業をやってもらいたい。

これは産業経済局や港湾空港局とかの所管もあると思いますけれども、環境局が司令塔、頭脳になるということで話がありましたので、ぜひそういった部分で、日本一、そして願わくは世界を目指して、進んでもらいたい。

ですからまずは、北九州の風力発電を作るというところから進めてもらいたいというふうに思っております。

それから、これに関して、39 ページ、脱炭素社会を目指してということで、風力発電と水素を活用してということで、提案になっています。

水素については発電ということですが、トヨタ自動車が、今CMをしていますけれども、水素燃焼で車を走らせるということに成功して、今、スポーツカーに実証ですけれどもやっております。

北九州の熱源については、水素を活用するということで、前回の審議会では、まだまだ技術的にはないという話でした。

しかし、もうトヨタが小型車、スポーツカーについては、もうすでに始めているということで、ぜひ北九州にもトヨタがありますので、連携してですね、水素を使った燃焼、発電、小さくても良いですから、そういったものをぜひ北九州市に持ってきて、水素発電できましたということで、日本に先駆けてやってもらいたいというふうに思っておりますが、これについて何か意見があれば聞かせてもらえたらと思います。

以上です。

【会長】

ありがとうございました。

他にご質問、ご発言ございませんでしょうか。

次の委員、どうぞ。

【委員】

49 ページですが、今回修正していただいたところとか、変えたところを赤字で示していただいていることと思いますけれども、49 ページの上の図表 6-1 で、1086 万トンに変わったという理解でよろしいでしょうか。

ここが変わるとすると、上のどこかが変わっていないと、変わらないのではないかと思います、どこをどう変えられたのかを教えてくださいたいというのが質問です。

以上です。

【会長】

はい、それでは今の質問に事務局、お答えください。

どうぞ。

【事務局】

先生のご指摘の通り、今回赤字で記載している 1086 万トンに変えているという趣旨でございます、図表 6-1 でもう一つ赤字にしておく必要があったのかもしれませんが、内訳としては、④の産業部門の 423 万トンと示されている、縦の CO₂ 削減量の②、こちらの数字が前回から変わっているものでございます。

【委員】

ここに吸収されるということで、わかりました。

ありがとうございました。

【会長】

他に、ご質問、ご意見ございませんか。

次の委員、どうぞ。

【委員】

2点あります。

1つは、パブリックコメントの回答についてなんですが、パブリックコメント 1 ページのコメント 7 番です。

公正な移行についてのコメントがあつて、それに対する事務局の回答が載っていますが、これは少し質問と、或いはコメントと、回答がずれているのではないかという気がします。

公正な移行というのは、グリーン化する過程で何らかの痛みが伴う場合があつて、それに対してきちんと手当をしましょうということですよ。

特に CO₂ をたくさん出す産業は、不況になる可能性があり、失業が発生する恐れがあり、そういうところにもちゃんと配慮してやっていきたいと思いますということなので、少しずれているかなと。

ただし、それを今回の計画に文言として入れるかどうかは別ですが、北九州は素材型産業集積の街なので、やはりその辺はすごく大きな影響があり得ます。

多分、具体的にいろいろされていると思います。いろんな政策的なことやられていると思いますので、その辺をもう少し入れるのか、或いはこれには入れないけど、きちんとやっていくということなのか、それはどちらでもいいかなとは思っています。

2つ目は目次です。

第 6 章の目次ですが、部門別の緩和策というものがあつて、これ我々は結構ディスカッションしているので、多分すぐわかるんですけども、環境とか何も知らない方がこれを読むと、この緩和って何っていう気がします。

これ、温暖化の緩和だということだと思いますが、温暖化の緩和というのがほとんど出てこなくて、目次には出てこないし、内容としてもあまりその言葉が出てこないの、いきなり部門別の緩和策って言われると、何を緩和するんですかと、よくわからないかもしれない。

ここは少し何か修正なり、説明なり、追加なりがあつた方がいいかなと思いました。

以上です。

【会長】

今の 2 点については、誠におっしゃる通りの面もあります。

目次で書いてしまうと、いきなりそこをみんな読むわけですから、やっぱり少し工夫しないといけない、ずっと読んでいったらわかるはずですけども。

今の 2 点については、おまかせいただければ、手直しいたします。

はい、他に。

次の委員、どうぞ。

【委員】

今後、この計画をプレスリリースされたりですとか、概要版も説明される場面があるだろうと思いますが、先ほどの委員のご意見はすごく感嘆するところがありまして、素材産業が多くて産業都市としての北九州市となると、脱炭素の話が出てきて、やっぱり企業を取材していると、もう僕たちは駄目なんだ、この今の事業が駄目になってしまうんだ、もう今だけなんだ、みたいな結構そういうネガティブに受けとめていらっしゃる産業の方が非常に多い印象があります。

この基本的な考え方の二つ目のところ、環境と経済の好循環の実現であったり、北九州でこの脱炭素で新しい産業を生み出していくんだ、というグリーン成長戦略に強いメッセージが込められているので、その脱炭素で、国の目標を踏襲して46%やります、すごく厳しい目標なんだで終わりじゃなくてですね、北九州から産業の人たちが次の成長を描けるような、一緒にこの街で、脱炭素で勝っていける企業の産業都市としての姿を作っていくんだっていうところが、対外的に発表していく時に伝わっていくと非常にその計画として、受け入れていかれるのではないかなというふうに感じました。

【会長】

はい、ありがとうございます。

グリーン成長戦略を北九州市独自で考えたいっていうのも、その思いからなんですよ。

だからそういうことを考えているということ、ここで繋がるようにしなきゃいけないというご指摘だと思います。

先ほどのご意見と同様だと思いますので、パブコメに対する回答については手直しをいたします。

あと、本文の方では、多分読んでいけばわかるだろうと思いますが、事務局にもう一度よく目を通させます。

グリーン成長戦略をことさら北九州で考えなきゃいけないと言っていることの意味が十分表現されているのか、もう一度精査します。

他に。

次の委員、どうぞ。

【委員】

ご議論していた「公正な移行」というのは、実は、弊社から出たコメントでして、今日後ろの方にオブザーバーとして座っている研究員から出たものですが、いろいろコメントありがとうございます。

私の方からも今後の大きなコメントだけで、質問とか修正依頼ではないです。

まず、洋上風力に関してですが、どういうふうにここで産業を作っていくかということが、大きな肝になると思います。

先日、私ども五島市に視察に参りまして、洋上風力等を見て参りました。

本当に驚いたことが、ガソリンスタンドの社長さんが再エネの推進員になって、地域エネルギーを立ち上げたりしていました。

まさに、普通だったら仕事なくなっている人が、再エネにうまく移行していて、いい事例でした。

また、地元で産業を産んでいまして、水車の風力の部分は、もちろん外国製だったり、日立製なんですけれども、下のコンクリート、海に埋まっている部分はすべてメイドイン長崎もしくはメイドイン五島でして、コンクリートは五島で作っていて、その上の部分は長崎県で作っているということなので、そこら辺すごく勉強になると思いますので、ぜひ、同じオール九州で五島市の事例を参考にされるといいと思います。

2つ目のコメントとして、49ページに、これ、今後大きなこの野心的な目標をどういうふうにされていくかっていうふうに書いてありますね、2030年に向けて。

私どもで最近開発したゲームがありまして、この1人ずつ市民レベルのライフスタイルをどう変えれば1.5度に達するか、パリ目標の1.5度の目標ですけど、今日本では1人当たり7.5トン出してるそうです。

2030年目標を達成するには、それを2.5トン、3分の1ぐらい、さらに2050年の0っていうと、0.7トンですから、かなりもう自分のライフスタイルを変えなきゃいけない。

それを60個ぐらいのカードがありまして、肉食を採食にして減らすとか、車を電車にすると、何g減りますよっていうので、自分ができるカードを拾って、2週間やってみるんですね。

それで本当にその7.5トンが2.5トンに減るか、もしくは足し算して実際やってみてできないものをまた変えるというゲームがありまして、ぜひ北九州市でもやらせていただきたいと思いますので、今後改めてご相談させてください。

あと3つ目ですけれど、参考資料の23にあります、問の14のところ、市民の方に今後やってみたいものを選んでくださいという質問がありまして、一位が「次世代自動車の利用」。

私もこれ聞かれるとこう答えるだろうなと思っていて、推奨者とか、そこら辺でやっぱりまず手が出ないし、買ってみても、乗り勝手がどうかわからないってことがありますよね。

なんかここら辺、せっかく市内に2つも水素ステーションがあるので、MIRAI（燃料電池自動車）を貸し出しして、お試して1ヶ月乗ってみるとか、なんかそういう車の中でちょっと安全性とかいろいろ心配事はあるんでしょうけれども、少し、貸し出し、レンタルをしたら普及が広がるのかなと思っています。

あともう1点は、温暖化のことではないですけど、紙ごみを減らすって、ちょっと前のトピックですけどありまして、この会議すごくリッチな資料をいただいて、これを電子で読むことは大変なので、本当に紙で送ってくださってありがたいのですけれど、やっぱりちょっと多すぎて、もったいないって気持ちがいつもあります。

よく今見てみて、どこの部分が削減できるかなと少し自分なりに考えてみたのですけれど、例えば前回の議事録をきちんと印刷していただいていますけれど、そこら辺はどうでしょう、私個人的には、不要じゃないかなと思っています。あと、銀行口座の振替の変更とか、変更する人は少ないと思うので、する人は判子を持ってきてくださいでいいかと思うんですね。

あと、参考資料も必要ですけど、もう少し凝縮できるかなと思っていて、円グラフの下にもっと詳細な表が書いてありますけれど、表はもういらなくて、円グラフぐらいの本当に私たちそんなに見れないので、そこら辺は何か簡素化して、やっぱりこの会議自体から、ちょっと3分の1くらい紙を減らすっていうことを、私たちの足元からすべきじゃないかなと思いました。

以上です。

【会長】

他に。

ご質問、ご意見がございましたらお受けいたしますが、いかがでしょうか。

次の委員、どうぞ。

【委員】

先ほどの委員の発言を聞いていて、1つ思い出したことがありましたけれども、今コロナで自粛が続いていて、大学生、学生たちも、結局その何をしていいか、アルバイトとかいうので、まずeスポーツみたいなのをしたりとかもありますけれども、昔に戻ってじゃないんですけれど、人生ゲームみたいなのを自分たちで作って、家族でしたり、友人同士でしたりしているんですね。

それを見させてもらったら、先ほど委員が言われたようなことを書いています。

持てるものを最小限にするとか、今の食生活を見直すとか、そういうふうなことで、お金を払ったりなんかしてですね、結構いろんな、何かこれすごく環境に繋がるということがいっぱい書いてあって、そういうのを作ったり過ごしていたので、何か教育にこういうことを生かしていけると、小中学生なんか興味を持って自分の生活を見返したりするのかなと思っていたのが、委員の発言で思い出しました。

ちょっと残念なことですけど、何か役立てるかと思いました。

【会長】

はい、ありがとうございます。

他にございませんか。

次の委員、どうぞ。

【委員】

この資料、いっぱいまとめられていて、ちょっと感心しております。

我々北九州市は、産業都市っていうことは当たり前のことなのですが、明治時代に鉄ができてということで、産業構造がこの 100 年で随分変わりながら、鉄も、量はあまり落とさずに、人が随分合理化されて、いろんなところに産業を興して、それで産業形態を変更しながら、この都市が産業都市として、ないしは環境都市として、息づいてきたということになっています。

環境ですけれども、今後起こるカーボンフリー、これを一つの基軸として、我が都市の産業構造、それから生活構造を、革新的に変えざるをえないという観点の中に立った、このいわゆる温暖化対策の基本指針が出たという具合に私は理解しております。

そこで非常に感心しておりますのは、北九州市グリーン成長戦略なるものが、今後、意見、この後、アドバイザースタッフのもとに、多分できていくと思いますけれども、私の希望としては、カーボンフリーを基軸とした、産業構造変革を北九州市のいわゆる産業構造として変えていって、特に北九州の産業が新しくできて、しかもイノベーションを伴った産業ができて、さらに北九州市としては、グリーンな成長を遂げていくという姿が、やはり北九州市の基本構造として描くべきではないかという具合に思っております。

したがって、私の期待するのはこのグリーン成長戦略なるものが、どのような期待を持ってできるのかというのは非常に楽しみにしておりますので、よろしくお願ひしたいというふうに思います。

【会長】

はい、どうもありがとうございました。

他に、ご質問やご意見ございますでしょうか。

よろしゅうございましょうか。

次の委員、どうぞ。

【委員】

北九州市といえば、面積の半分近くが森林で占められていますよね。

CO₂の吸収については、あまり触れられていないような気がするんですけど。

この作ってくださったものを英語化するにあたって、JICA とか、そういうふうな開発部局に、もし、これをお見せするのでしたら、第一次産業による、例えば、食品だとか、スマート林業、農業とか、水産業とか、そういうものの CO₂ の吸収量、水産業の場合はブルーカーボンがかなり重要で、海洋で成り立っている国もあるかと思しますので、そういうふうなことを考慮していただければありがたいと思います。

特に、100 ページでは、スマート水産と、スマート農業、2 つしか書かれていないですけども、スマート林業というのもあると思いますので、今後の北九州市の目指す方向性として、ぜひ、スマート林業も加えて欲しいと思いました。

【会長】

111 ページを見ていただくと、農林水産業のスマート化があるので、林業が入っていますが、事務局から何か答えがあれば、お願いします。

【事務局】

会長におっしゃっていただいた通り、111 ページに農林水産業スマート化が入っておりますし、それから、吸収源の対策として 113 ページに森林保全も含めた、森林整備が入っております。

そういったことに基づいて、取組みを進めていきたいと思っております。

【委員】

確かに文章では書かれているのですが、やはり絵で示して欲しいと思いましたので、今回の発言に至りました。

それと、資料集に将来推計の算定根拠等というところがありますけれども、ここで CO₂ の吸収量についても記述をお願いしたいと思います。

第一次産業、農林水産業による CO₂ の吸収量も、できましたら書いていただければと思います。

【会長】

49 ページにあります。

事務局、どうぞ。

【事務局】

削減量の積み上げの際にも、森林などによる吸収源対策を積み上げたうえで、CO₂ 削減効果を出しております、資料集の方にも、その旨記載をしております。

【会長】

ただ森林だけじゃなくて、ここでは緑地整備も含め、たぶん林業そのものが、北九州で成り立っていると思にくい面もあるものですから、なかなかそこを強調するというよりもむしろ、全体としての都市緑化のようなもので持っているポテンシャルも評価すると。

というのは残念ながら、そこで、稼げる量が本当に全体からするとわずかですけども、無視しているわけではなくて、しっかり入れてあるというふうに思いますので、ご理解いただけると幸いです。

他にございませんか。

次の委員、どうぞ。

【委員】

北九州の中小企業団体を代表して参加させていただいております。

第7章に市役所の率先実行が書かれていますけれども、我々中小企業団体につきましても、ここコロナによりまして、テレワーク、テレビ会議、非常に皆さんとできるようになり、我々団体の中ですと、関係の行政の方もかなり多いと思います。

今、我々業界の中で、市役所に行かなくて済むよと。

テレビ会議で、そのまま書類をチェックして、赤ペン入れて、赤線入れて修正して、終わってしまうと、紙を減らそうと。

我々、中小企業の役員につきましても、紙の量っていうのが非常に多いです。

これも素晴らしい量の紙でまとめられています。

こういったものを減らして行って、会う回数を減らす、それから紙の量を減らす、ということで、資源の削減、是非とも北九州市役所、大きな力を持っていますので、そういうことも、市の率先事項に入れていただけるとありがたいなと思っています。

以上です。

【会長】

はい、ありがとうございました。

紙が分厚くて、ものすごい量が多いというご批判が重なって出てきていますが、実は私は、電子媒体にしてしまうと、会議は成り立たないっていう気がものすごく強いんですよ。

実は、中央環境審議会は紙がなくて、これがバンとくるだけなんです。

そうすると、前の資料を見ようと思っていると、話がどんどん先に進んでしまうんですよ。

データを見ようと思っても、たどり着くのに、紙の場合と違って、電子媒体の場合はものすごい時間がかかるんですよ。

ちゃんと比較をしながら、どうしようとか議論をやる時には、最低限、紙媒体みたいなものがないとなかなか議論しづらいなという気がありますから、私はあえてこの分厚いものが、けしからんと言わなかったのですけれども。

やろうと思えば幾らでもできると思いますが、おそらく会議にならなくなってしまうということが、私の実感です。残念ながら。

それから、実際に私のところに、環境省からもドチャッとファイルが届くんですけど、自分でそれをチェックしようと思うときに、結局自分でプリントアウトしてしまうんですよ。

だから、環境省が今電子媒体に変えて電子化して、非常に合理的にやっていると思うんだけど、全部こっち側の紙代負担です。要するに予算は浮くんですよ。

私は東京に行かないので、旅費も浮いていると思うんですけども。

だから、それはいいかもしれないけれど、本当にきちんと見ようと思うと、電子媒体であれやこれやと比較することはすごく難しいんですよ。

ですから、その辺は多少考えないといけないんですが、確かに、この分厚いものをもらって、ワッて思われたと思いますし、これが電子媒体で届くと見なくて済むから楽だということかもしれませんが、その辺のところはいろいろあると思います。

ただし、やっぱりご意見出ていますし、今後タブレットに変えるっていうことなら、事務局としてしっかり考えていただく必要があろうかと思っています。

ご指摘いただいている、こんなことを言いながら何やってんだっていうのは、もうその通りで、ご批判は受けとめたいと思います。

ただ、繰り返しますけれども、電子媒体にしてしまうと、なかなか会議での情報の検索が難しくなるという気持ちがあるんですね。

ご経験の方は、お分かりだと思います。

その時の資料が、1つのことを決めるというのであれば、紙1枚の代わりに電子媒体で良いんですけども、多面的にいろんな情報を提供しようと思っている時には、電子媒体であることが良いか悪いか、ちょっと、という気がするんですけど、事務局の代わりに少し申し上げましたが、確かに言われる通りだということは率直に認めます。

他にございませんでしょうか、よろしいでしょうか。

【委員一同】

なし。

【会長】

それではいろいろご意見いただきましたが、ご質問ということでお答えをしなきゃいけないような、内容はそんなに多くなかったかなっていう気もしますが、事務局の方で、質問としてお答えした方が良いと思うものがあれば、どうぞ答えてください。

全体としての決意表明は、また局長にお願いしたいと思います。

よろしく願いいたします。

【事務局】

ありません。

ありがとうございました。

【事務局】

全体の決意表明として、今回、「グリーン成長」ということをしっかりやっついていかないといけない。

脱炭素というのは、あくまでもルールであって、脱炭素をしっかりと実現しながら経済成長させるということが、やはりテーマだと思っています。

ですから、CO₂は減ったけれども、経済が弱くなったということでは何をやっているのかわからないということで、皆さんからご意見いただきましたようにしっかりと成長を実現できる、脱炭素の取組みというのを第一義的にやっていきたいというふうに考えております。

その中で、洋上風力のご意見もいただきましたが、風力発電には2つの事業があるんだろうと思っています。

1つは風力発電を設置する事業、もう1つは、風力発電で電気を発電する事業。

秋田と長崎は、どちらかというと、発電する事業の方が中心ですけど、北九州市は国内の基地港湾として、四つの基地港湾として、特に西日本で唯一の基地港湾で、今後、ここから風力発電を設置するという事業の、一番のきちんとした計画があるんですけども、その辺の産業をしっかりと集積して、今後西日本で設置される風力基地が、実は北九州で作られて、北九州から設置されるんだよと、そういったところを今、港湾空港局と一緒に、目指しています。

そのために必要なメンテナンス、そういうところの人材育成なんかも、今年・来年から、しっかり力を入れてやっていこうということで、温暖化対策はしっかりやらないといけないですけども、それを踏まえた経済成長というものも、グリーン成長戦略の中でしっかり作っていきたいと考えています。

【会長】

はい、よろしゅうございましょうか。

それではご意見をいただきまして、私の方で直しますというふうに、もうすでに宣言をいたしました。パブコメに対するお答えの答えぶりついて、これは直させていただきます。

それから、さらに本文の方で、緩和と適用という、我々は見慣れた言葉になってしまっていますが、いきなり目次に出てくるということでもいいのか、ということがございました。

これも少し検討させていただきます。

ただし、気候変動について、緩和と適応という 2 つのものを並べて議論することは、今はもう国際水準の話なので、いいんだと思っていたのですけれども、確かに、初めて見てなんだと思われる方がいるということは、配慮しなきゃいけないので、それは検討させていただきます。

それから、公正の移行について、本文の中でもそれがもう少しはつきりわかるような表現ぶりができるかどうか、もう一度検討させていただきますが、それ以外に、さらに時点修正のようなものもあるかもしれません。

そんなに時間はありませんけれども、よくよく再度見て、場合によっては多少修正をするということがある場合には、それらを含めて私にお任せいただけますでしょうか。

よろしゅうございますか。

【委員一同】

異議なし。

【会長】

ありがとうございます。

それでは、今申しましたことと、それからもう一度よく目を通して、ミスがあった場合はそれを修正するというについては、私にご一任をいただきました。

あとは、このとおりに答申として市長に提出したいと思いますので、よろしく願いいたします。

それでは本日お諮りすることは以上でございますが、何か委員の皆様方からご発言ございますでしょうか。

よろしゅうございますか。

それでは、事務局どうぞ。

【事務局】

本日は、お忙しい中、お越しいただきまして、誠にありがとうございます。

貴重なご意見をいただきました。

誠にありがとうございました。

本日ご審議いただきました 2 つの計画につきましては、8 月上旬の答申を予定しているところでございます。

その後、策定に向けまして、速やかに作業を進めていきたいと考えております。

委員の皆さま方には、2つの計画を策定後、改めてお知らせしたいというふうに考えております。

次回の審議会につきましては、10月から11月の秋ごろに予定しているところでございます。

日程等詳細につきましては、改めて事務局の方からご案内を差し上げたいと思います。

なお、開催方法でございますけれども、新型コロナの影響が秋ごろにこういった状況になっているかわかりませんが、会長と協議させていただきながら、Web開催、書面開催なども視野に入れ、実施方法については考えていきたいというふうに思っております。

それでは、本日は長い時間にわたりましてご審議いただき、ありがとうございました。

以上で第61回北九州市環境審議会を終了させていただきます。

ありがとうございました。

【会長】

どうも、ありがとうございました。